

第4期幸区区民会議第4回専門部会（暮らしの安全部会）

日時 平成25年1月23日（水）午後6時30分から

場所 幸区役所5階第3会議室

議 事 次 第

1 エリア別防災マップの作成に向けた検討について

2 その他

※第3回暮らしの安全部会において、調査審議テーマ（案）とスケジュールを踏まえた審議により、提言内容の方向性を次のとおりとしました。

【3つの検討項目をつなげるストーリー（目的）：
中学校区レベルでの地域防災力の向上】

【3つの検討項目をつなげるストーリー（目的）：
中学生を軸とした自助・地域防災力の向上】

これまでの議論より、①自助（個人）、②共助（地域）を進めていく、とくに中学校区レベルでの地域防災マップの作成や、中学生を巻き込んだ防災訓練を行うなど、より生活・地域に密着したレベルでの防災

既存の取組

- 中学校区の防災マップ
⇒「幸区防災マップ」が既に発行されている(幸区役所)。
- 中学生を対象とした防災訓練
⇒災害図上訓練(DIG)により、防災上の地域の強さ・弱さを理解しながら、防災意識を高める取組を行っている(幸消防署)。

検討項目

提言内容（アウトプット）のイメージ

自助に関する検討

- 自助の意識向上のための取組
- 自助の実行のための取組
 - ・どうしたら、自助の取組を徹底できるか

エリア別防災マップの検討

- 住民参加によるエリア別防災マップの作成
※住民参加による防災マップの作成により、エリアごとの防災意識の高揚、防災まちづくりのきっかけづくりとして活用
 - ・具体的なマップ作成の手法の提案

中学生を巻き込んだ防災訓練

- 中学生を巻き込んだ防災訓練の実施
- 中学生を巻き込んだ自主防災組織活動・避難所運営
 - ・中学生を巻き込んだ防災訓練は、長期的には中学生も活躍する自主防災組織活動、避難所運営につなげていく

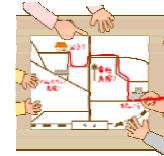
提言項目①：中学生を対象とした

「(仮称)幸区マイ防災マップづくり」

【背景】自助の役割として、自らの防災マップづくりが重要であるが、実際に「マイ防災マップ」を作成している区民は少ないと思われる。幸区では、中学生を防災の貴重な戦力ととらえ、災害図上訓練の実施を行っているが、「マイ防災マップ」作成により、防災上の地域課題等の把握を強化するとともに、避難スキルを高めることが必要。

【効果】①防災マップづくりを通じ、防災意識の向上を図る(⇒自助、共助の向上)。
②幸区の中学生が「マイ防災マップ」をつくれるようになる(⇒自助、共助の向上)。
③中学生を対象とすることで、保護者や家族への波及効果が期待できる。

【内容】中学生を対象とした「防災まち歩き」を実施し、地域の防災上の特徴、課題、利点などをマップに落とし、模擬避難経路を検討し、「地域防災マップ」を作成する。本訓練をベースに、各人の自宅を起点とした「マイ防災マップ」が作れるようにする。



提言項目②：中学生を対象とした防災訓練の実施

【手法/内容】他市事例などから、既存の防災訓練への中学生の参加を提案。

※出来れば、上記提言項目①と関連した形で提言。

中学校と連携した防災マップづくりについて

1 想定先との連携の可能性

- ①南河原中学校
- ②南加瀬中学校

来年度校長が代わる可能性が高いため、新年度に入ってから調整となる。

③幸消防署が実施する中学校を対象とした災害図上訓練（DIG）

⇒（幸消防署）区民会議との連携は可能。

【実施概要】

日時 平成25年3月12日午前中（2時間程度）※詳細未定

場所 日吉中学校体育館

対象 日吉中学校1年生



2 災害図上訓練（DIG）とは

Disaster（災害）・Imagination（想像力）・Game（ゲーム）

dig（ディグ）という英単語は、「掘る」という動詞

⇒「探求する」とか「理解する」といった意味を持っており、「**防災意識を掘り返す**」、「**地域を探求する**」、「**災害を理解する**」といった意味合いも込めて、DIG（ディグ）と名付けられています。

【目的】

DIGは中学生に訓練を通して疑問を持ってもらうことを目的としており、完成した地図による成果物は求めていない。※プロセスを大切にすること

【実施方法】

- ①地域の大きな地図を広げる
- ②ビニールシートを被せる
- ③参加者は地図を囲み、地図にマジックで色を塗ったり、シールを張ったりして、地域の特徴を再認識する（1グループ10人程度まで）
- ④地域の危険はどこか、災害が起きたらどうするかなどを楽しく議論しながら、防災意識を高める（議論の際に人の意見は否定しないこと）

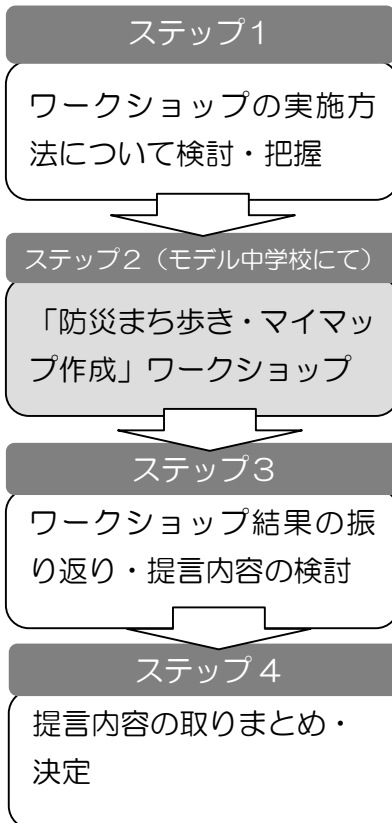


幸区区民会議暮らしの安全部会 (仮称) マイ防災マップの作成にあたっての検討イメージについて (案)

1. 提言内容：(仮) 中学生を対象とした「(仮称) 幸区マイ防災マップ」づくり (案)

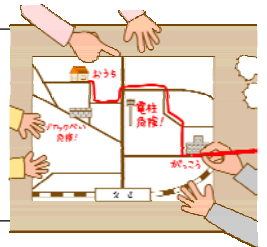
目的	地域防災力の担い手として期待される中学生の一人ひとりが、「(仮称) 幸区マイ防災マップ」づくりを通して、自助の意識や災害時の知識を高める。 ※「(仮称) マイ防災マップ」：自分の家族の集合場所、自宅から避難所までの避難経路、周辺地域の危険箇所や防災上の助けとなるものなどを記載したもの。
位置付け	幸消防署で現在実施している中学生を対象としたDIG (災害図上訓練) と連動した取組として展開する。

2. 提言までの検討・実施フロー



「防災まち歩き・マイマップ作成」ワークショップの実施方法について検討・把握。
※消防署や、PTAなどその他の団体組織のご協力を得る場合は、その方々にも出席頂く等。

モデル中学校にて、ワークショップを開催。
【プログラム (案)】①まち歩き (1時間～1.5時間) ②防災マップ作成 (1.5時間)
③事後アンケートの実施



ワークショップ結果から、提言内容の検討を行う。
※例：モデルワークショップでは、中学生を対象に行ったが、自主防災組織で地域住民全般に行えるような手法と周知方法を提言に盛り込む、など。

「ステップ3」での協議内容を踏まえ、提言内容の決定を行う。

提言にむけた取組の展開について（これまでの委員の発言より）

【自助】

- **自分の安全をまず確保することが重要**。救助の手が届く 2、3 日分の食糧等は自分で用意する。
- 3 日間は自宅にとどまるという広報をして、避難所に来ることを抑制してはどうか。
- **自助を各家庭で強めてもらうことが重要**。
- 一時避難場所については誰も知らない可能性がある。

【防災マップ】

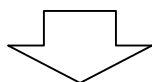
- 防災マップは地区ごとでないといけない。**中学校単位でやってはどうか**。
- 地域を限定した、**持ち歩ける**防災マップを作成するとよい。

【防災訓練】

- **中学生は大人以上の働きをする**ため、中学生を軸にすると、若い人を防災に取り込んでいける。
- **若い人の興味がわく防災訓練**をできないか。
- 防災マップの作成に特化せず、訓練も含め 1 つの流れとして実施する。
- 中学生は**避難する訓練**をするべき。避難経路を書きながら覚えてもらうのも防災訓練の一環。
- 町内会の人だけが頑張っても仕方がない。**若い人が出てくるようになるとよい**。
- **中学生と連携する組織づくり**ができるとよい。

◎ 3 つの検討項目をつなげるストーリー（目的）

→ **中学生を軸とした自助・地域防災力の向上**



◎ 「**地域(自主防災組織等)**」と「**中学生**」をどのように繋げていくか